

せいじ園「2021年度自己評価に関するアンケート」集計結果

「自己評価に関するアンケート」の実施にあたって、2018年度に質問項目の精選を行い、2019年度に若干の変更を行った。2021年度はこの2019年度のものを踏襲した。内容は次の4項目および「自由記述欄」からなる。

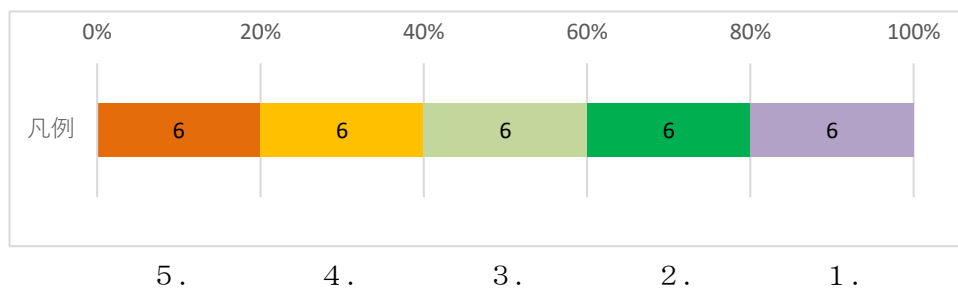
- I 子どもの保育に関して（1～13）
- II 保護者への対応に関して（1～8）
- III 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して（1～6）
- IV 能力向上の努力に関して（1～9）

それぞれの設問について、次の評点を選択する形で回答を求めた。

- 5. よくできている
- 4. だいたいできている
- 3. あまりできていない
- 2. できていない
- 1. 設問の内容が自分に該当しない

2021年12月下旬にアンケート用紙を全教職員に配布、回収をした。教職員数は24名。回収率は100%である。集計は園長が行った。

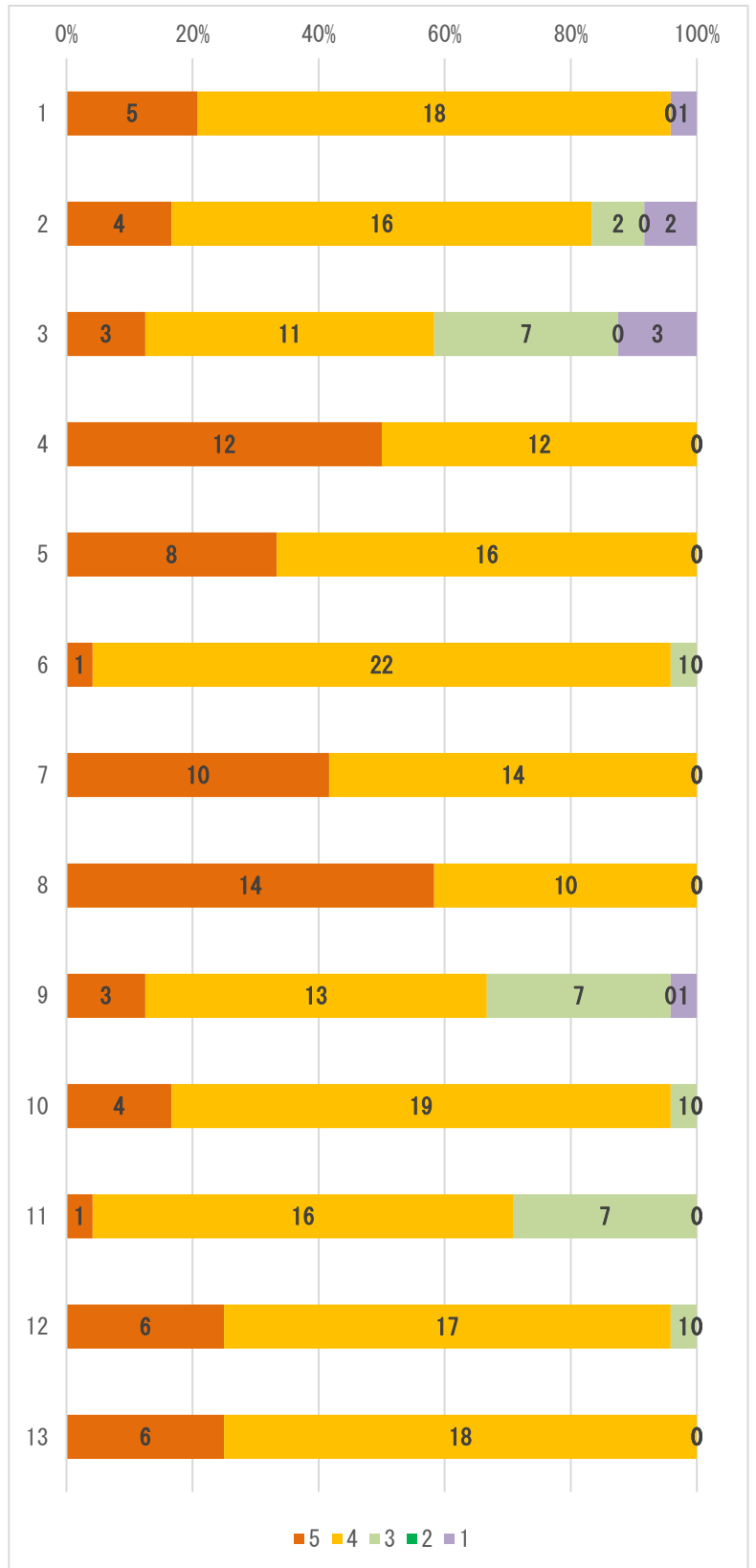
集計グラフ



せいじ園「2021年度自己評価に関するアンケート」集計結果

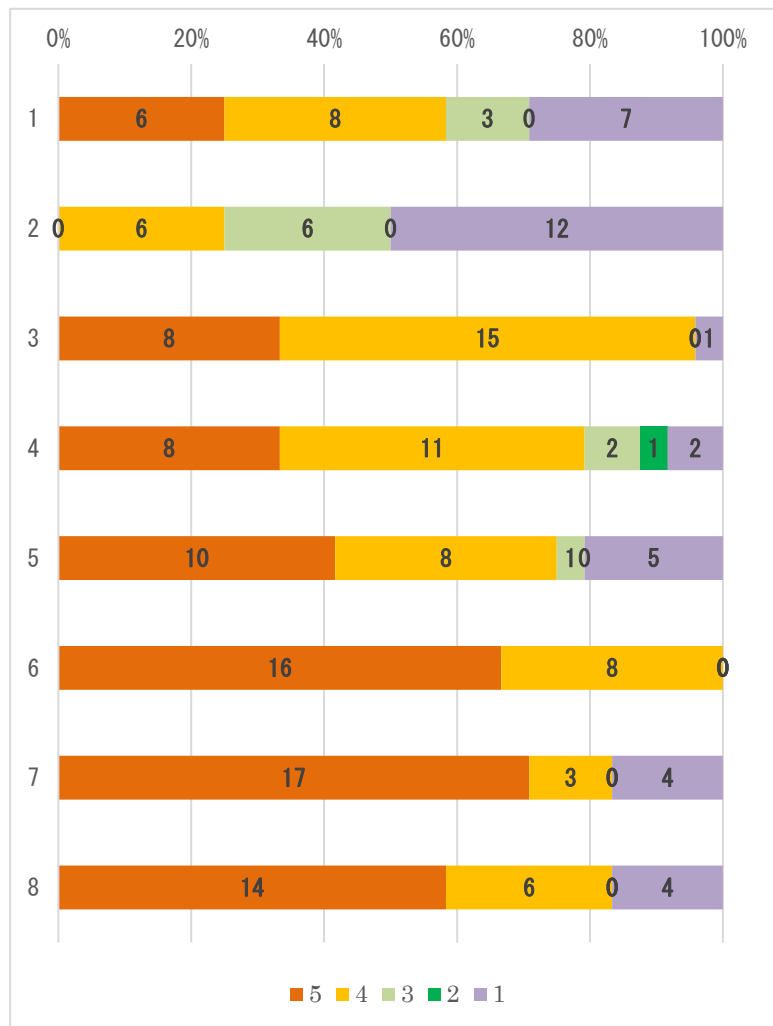
I 子どもの保育に関して

①登園時、担当する子ども一人一人の健康状態について十分に確認している。
②子ども一人一人の発育や発達の状態について理解できている。
③子ども一人一人の家庭環境や成育歴などを理解できている。
④子どもの話によく耳を傾けるようにしている。
⑤それぞれの子どものありのままの姿を受け入れ、認めるようにしている。
⑥禁止、命令、せかす言葉や子どもの自信を失わせるような言葉や態度を避けている。
⑦子どもをほめたり、励ましたり、子ども自身が目当てを持てるような言葉がけを心掛けている。
⑧子どもとの温かなやり取りや適度なスキンシップを心掛けている。
⑨子どもが遊びを深めていけるようヒントやアイデアを提供している。
⑩子ども同士の関係にも配慮して保育を行っている。
⑪言葉にならないサインをも見逃さず、子どもの基本的欲求が満たされるよう配慮できている。
⑫保育者自身が、保育の中で神様への感謝の気持ちを持ち、それをことばや態度で表現するよう心掛けている。
⑬どの子どもにも感情のむらなく平等にかかわるよう心掛けている。



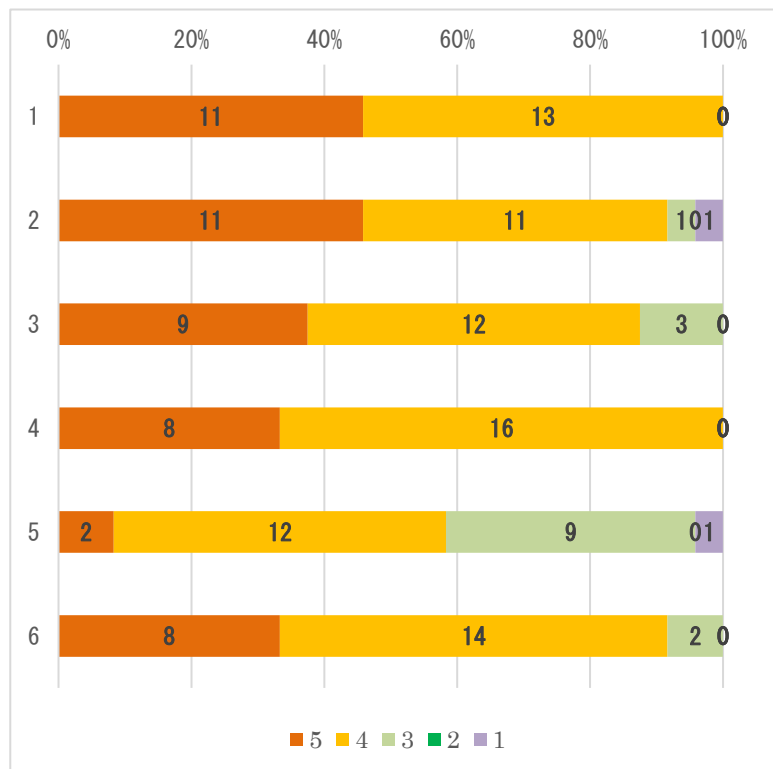
II 保護者への対応に関して

①子どもの様子について、保護者と直接話したり、電話、連絡帳などを使ったりして十分に伝えられている。
②各家庭での養育方針などについて保護者と話し合っている
③ていねいな言葉遣いを心掛け、友だち同士のような態度で接していない。
④保護者からの依頼や伝言については、記録を残し適切に対応している。
⑤保護者から苦情等があった場合は、よく話を聞いたうえで、上司に報告、相談をしている。
⑥教職員や園の批判を軽はずみにしたり、他の園児や家庭の個人情報を他言したりしていない。
⑦家庭環境や問題について知り得た重要な情報は、むやみに他言せず、上司に報告している。
⑧保護者からの要望、意見等について、安易に引き受けたり断ったり無視したりせず、上司に報告、相談をしている。



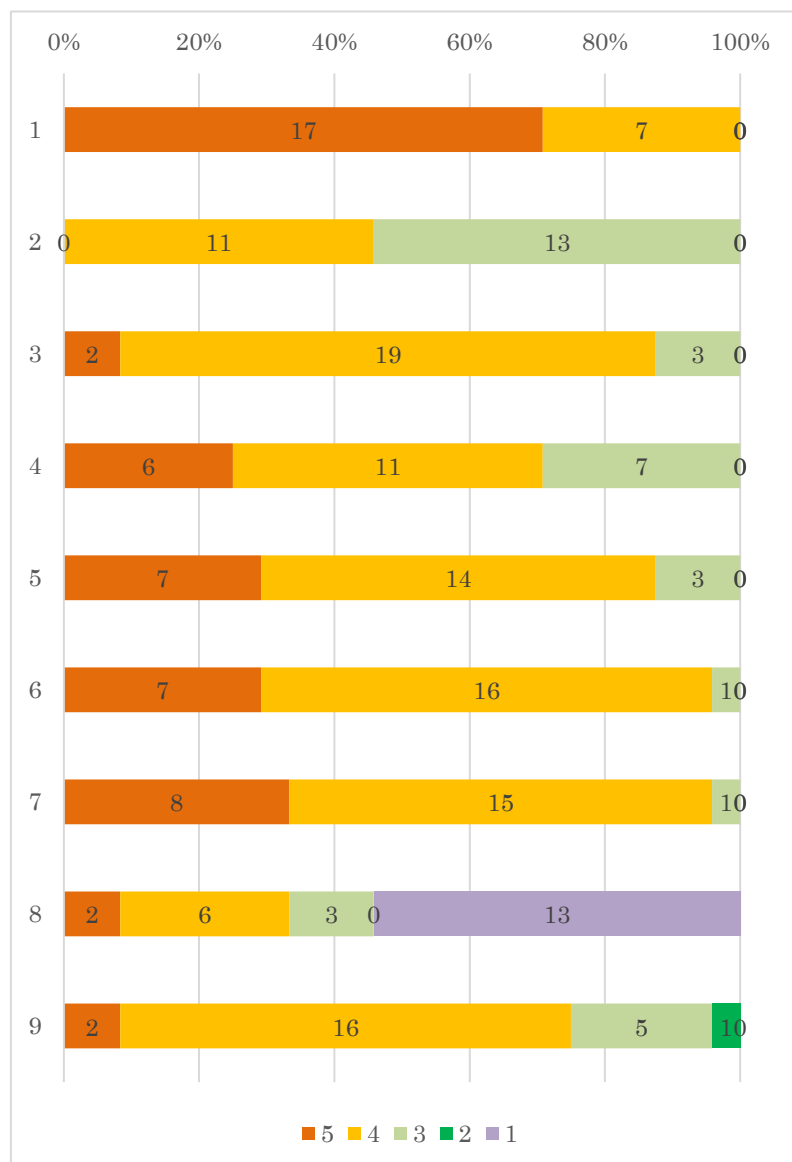
III 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

①子どもの情報について、保育者間で共有すべきことは同僚・上司に適切に報告している。
②同僚から保育について相談を受けた時、誠意と忍耐をもって耳を傾けるよう心掛けている。
③同世代だけでなく、年齢の違う同僚とも積極的に情報交換できるよう心掛けている。
④上司や同僚の助言を素直に聞き、自分の考えや行動を修正することができる。
⑤職場環境の改善に必要と思うことがあれば発言や提案をしている。
⑥色々な考えを受け入れ、多方面から物事を見るようにしている。



IV 能力向上の努力に関して

①保育者の人間性が子どもに影響を与えることを自覚している。
②保育者としての専門知識や技能を十分に備えていると思う。
③園内の遊具や教材について、使用法や危険性について熟知している。
④常に保育者としての専門知識や技能をさらに向上させるよう努めている。
⑤子どもや保育、教育に関する情報を日ごろから得ようと努力している。
⑥職場では正しい日本語、丁寧な言葉遣いを心掛けている。
⑦服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心掛け、安全性にも気をつけている。
⑧研修会や研究会には事前にその内容を確認し、自己課題をもって参加している。
⑨回覧される月刊「キリスト教保育」や保育の参考文献をよく読み、自身の保育への参考を得るよう心掛けている。



【園長所見】

アンケートを実施した対象人数は29名である。あくまでも「自己評価」のアンケートであり、各教職員が各項目について自分自身をどのように評価するかという数値の集計である。全般的には昨年度のアンケート結果とはほぼ似た数値となっているが、いくつか特徴的なこと、留意しなくてはならないこと等、園長の所見を述べる。

I 子どもの保育に関して

設問の①～③は個々の子どもの理解についてである。③の設問「家庭環境や成育歴の理解」について、肯定的な評価（5ないし4）をしたものが14名（58%、昨年度50%）であった。否定的な評価（3ないし2）をしたものも非常勤の保育者を中心に7名（29%、昨年度33%）おり、常勤・非常勤の保育者間での情報共有が課題である。

設問の④～⑬は子どもとの接し方に関する内容である。おおむね良好と言えるが、⑨「遊びを深めていけるヒントやアイデア」や、⑪「子どものサインを見逃さない」という設問に、昨年同様にいくつか否定的な評価が散見される。特に、⑪については5「よくできている」をつけたものが昨年度の5名（21%）から1名（4%）に減少していることに留意し改善の方策を検討したい。

II 保護者への対応について

昨年度との違いは②「各家庭の養育方針などの話し合い」に見受けられた。肯定的な評価（5ないし4）をしたものが12名（50%、昨年度21%）と昨年度に比べて増加している。新型コロナウイルス感染症拡大も2年目であるため、こうした状況の中にある保護者との十分な意思疎通の在り方について引き続き検討していきたい。

III 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

⑤「発言や提言をしている」について否定的な回答（3ないし2）が9件あった（38%、昨年度29%）。これまでも発言や提言の場の創設が課題であったが十分に実現していないため、改善の具体策を検討していきたい。

IV 能力向上の努力に関して

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、昨年同様、今年度も研修に制限があった状況が⑧の回答から窺える。今年度は研修のオンライン化が進んだものの、肯定的な回答（5ないし4）をしたものは8名（33%、昨年度29%）とあまり変わっていない。